

令和7年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：愛媛県

市町村名：宇和島市

島名：日振島

協定締結集落名：日振島

交付金額：6,717千円

(1) 基本交付金：6,717千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0円

協定参加世帯数：64世帯（128人）（うち漁業世帯数：47世帯（71人））

2. 協定締結の経緯

集落協定を締結している日振島地区は、ブリ・マダイの養殖、採貝・採藻、大中型まき網、はえなわ漁業等が盛んに行われている。しかし魚価の低迷、不安定が長く続き島の活気が失われつつある。そこで地域漁業の活性化を図るとともに、集落の漁業生産活動が活発な状態となることを目指して、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

① 漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・マハタ 3,000尾、サザエ 10,000個を地先漁場へ放流した。
- ・磯焼けが拡大しているため、磯焼けの原因となるウニ（ガンガゼ）の駆除を11回（延べ146名）実施した。
- ・枠組みとなる鉄骨や金網にワカメ・クロメの種糸を取り付け、磯焼け漁場に設置し、藻場の回復を図った。
- ・アオリイカ等の資源量が減少しているため、資源増大を目指しウバメガシ等の木で産卵礁を作成し、漁場に設置する作業を7回（延べ74名）実施した。

② 漁場の再生に関する実践的な取組状況

- ・年々減少している天草を増加させるため各漁場へスポアバックを設置し、資源回復を図った。

③ 新規就業者に係る取組状況 なし。

4. 取組の成果

- ・放流したマハタの稚魚、及びサザエの定着が確認されており、今後の水揚げの増加が期待される。
- ・磯焼け漁場のウニ（ガンガゼ）の駆除や、ワカメ・クロメ種糸の取り付けを実施することにより、周辺で海藻の定着が見られるようになった。
- ・海底に設置した産卵礁周辺で稚イカや稚魚が多く確認され、漁獲量が増加した。
- ・海底に設置したスポアバック周辺で天草の定着が見られるようになった。



種苗放流(マハタ)



漁場の管理・改善(ガンガゼ駆除)



産卵場の整備(産卵礁の設置)



天草スポアバック設置